※ へ た れ 嫁

あるところに与平と一人息子の与助とがいた。与助が大きくなったので嫁をもらうことになり、与平がさがしにいったところいい娘がいた。それで嫁に欲しいと云ったところ、あまりへをたれるのでという。それでもいいと嫁にもらった。

嫁は一日、二日と日がたつにつれて、顔色が悪くなった。心配した与平がどうしたかと聞いたらへをしないためだという。へなら遠慮するなといったら、二、三日しないから大きいのがでるから何かにつかまっていてくれという。

それで与平はいろりぶちに、与助はタンスにつかまっていたが、嫁のへはあまりにも大きく、いろりぶちがはずれ与平は裏の畑まで、与助はタンスとともに隣の家までとばされた。土間にあった臼は、ひき風で嫁の腹にガバッと入ってしまった。あまりのことにおどろいた家人は嫁を出してやることにした。

嫁があるいていくと、モモの木の下にばくろうが休んでいて、モモをとりたいが、とる方法がないかという。嫁はへでとればかんたんだというと、ばくろうは本当にしないで、もしへでとれたらこの馬をやるが、失敗したらおれの嫁になれといった。嫁はそれでよいといい、へをひったところ腹の臼がとびだしモモの木にあたり、モモは全部おちた。嫁は馬をもらい馬にのって家に帰り、ばくろうは町でモモを売って金をもうけたという。